

5月 ツキノワグマ

日本に渡つて来たばかりのオオルリやキビタキ、クロツグミなど夏鳥たちがにぎやかにさえずり、鮮やかな新緑が眩い。山々は春の訪れとともに活気にあふれている。

湖北の山々では3月下旬から4月ごろ、植物の芽吹きに合わせて冬眠から覚めたクマの姿が見られるようになる。僕はクマに会えるこの時期を毎年楽しみにしている。

クマは山の斜面でアザミなどの伸び始めた草を食べ、木に登つて新芽を食べる。タムシバの白い花が咲くとマはこの木に登つて花を食べる。よほどおいしいらしく、どんどん花を食べ尽くして、白い花に覆われた木がみる



湖国のフィールドから

動物写真家 須藤一成

2

目覚め、花ときどき狩り

みる色あせていく。
芽吹き始めた木に登つて採食するクマの姿は、真っ黒な毛となつて遠くからでも見つけることができる。葉が繁茂してしまうクマの姿は葉陰に隠れて見つけるのは難しくなる。

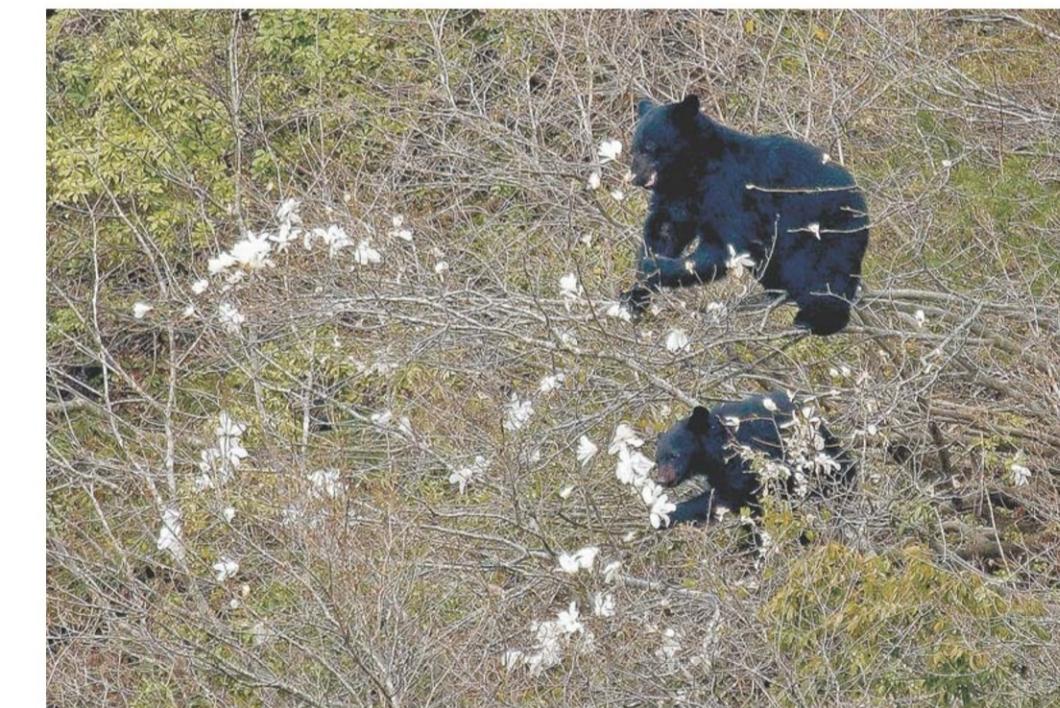
木に登つて若葉を食べる



カモシカの幼獣に襲いかかる



木に登つて若葉を食べる



満開のタムシバの花を食べる母クマと子クマ



すどう・かずなり
1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影に取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』(平凡社)など。

裏つて捕まるのを自撃した。その日、クマは子連れのカモシカを跟踪していた。カモシカ親子が歩いて行った後を少し遅れてクマが追っている。広葉樹の林に入つて見えなくなつてから15分ほどたつたころ、カモシカ親子が走り出た。30メートル後方からクマが追つて来る。再び林の中へ消えた後、子カモシカとそれを追つクマが全速力で駆けだして来た。すぐにクマが子カモシカに追いつき喉元に噛みついた。子カモシカは間もなく息絶えた。ライオンやチーターが獲物を狩るのと同じように鮮やかな狩りだった。このクマにとってこれが初めての狩りではないことは明白だった。

秋はドングリなどの木の実を食べて脂肪を蓄積して冬眠に備え、春には芽吹き始めた植物で冬眠明けの体力を回復する。主に植物食であるが、チャンスがあれば肉食をする。哺乳類の出産期には捕まえやすい幼獣を積極的に捕食しているのかもしれない。

クマは愛嬌があつてかわいらしい姿を持つ半面、他の動物を襲つて一瞬にして息の根を止めてしまう強靭な力を持つている。時には人身害も発生している。クマは日本の自然を象徴する素晴らしい野生動物だ。われわれ人間とは一定の距離をおいて、共に生きていくべき動物だ。彼らもまたそれを見ている。

II 第3水曜に掲載予定